

未来の自分に ひとり一人が輝ける 生徒の育成  
—ふるさと新宮を愛し、誇りをもつ心を育む—

文責 (校長) 圓 田 雅 也

= 信 頼 の 絆 =



立春を過ぎ、暦の上では春を迎えましたが、まだ厳しい寒さが続いています。

三年生にとっては進路決定に向けた正念場であり、一・二年生にとっては学年のまとめに向かう大切な時期となりました。

さて、イタリアで開催され、連日大きな盛り上がりを見せてくれた「ミラノ・コルティナダンペッツォ 冬季オリンピック」が閉幕し、雪と氷の上で繰り広げられた熱戦は、私たちに多くの感動を与えてくれました。中でも、日本中の胸を熱くさせてくれたのは、フィギュアスケート・ペアで見事に金メダルに輝いた「りくりゅう」こと、三浦璃来選手と木原龍一選手の二人ではないかと感じています。日本ペア史上初の金メダルという快挙の裏には、皆さんにぜひ知ってほしい「絆」について、二つの話を紹介します。まず、一つ目は、互いを信じ抜く「信頼」の力です。ペア競技は、一人のミスが二人の結果に直結する過酷な種目です。しかし、彼らの演技を見ていると、そこにあるのはプレッシャーではなく、互いへの深い信頼でした。木原選手はかつて、怪我やパートナーの解消など、何度も困難に直面し、一度は引退も考えたといっています。しかし、三浦選手という最高のパートナーに出会い、「スケートが楽しい」という純粋な気持ちを取り戻しました。金メダルを決めた瞬間の二人の弾けるような笑顔、そして互いを称え合う姿。それは、苦しい時も楽しい時も、二人で一つの目標に向かって歩み続けてきたからこそとどろける境地です。皆さんの学校生活も同じです。一人では乗り越えられない壁も、仲間と支え合い、信じ合うことで突破できることがあります。誰かのミスを責めるのではなく、カバーし合い、高め合える。そんな関係を、この学び舎で築いてほしいと願っています。

二つ目は、「失敗を恐れず、前を向く強さ」です。彼らも最初から完璧だったわけではありません。何度も転倒し、怪我に泣き、思うような結果が出ない時期もありました。それでも彼らがリンクに立ち続けたのは、自分たちの可能性を信じていたからです。皆さんも、テストの結果や部活動での失敗に落ち込むことがあるかもしれませんが、本当に大切なのは、失敗したときにどう立ち上がるか、そして、その経験をどう次に生かすかです。りくりゅうペアが証明してくれたのは、「諦めずに継続することの大切さ」です。

三年生の皆さん、いよいよ受験本番です。プレッシャーを感じることもあるかと思いますが、りくりゅうペアのように「自分と、共に歩んできた仲間や先生、家族」を信じてください。最後の一步まで諦めない姿勢が、必ず道を作ります。

冬の寒さを乗り越えてこそ、春の桜は美しく咲きます。ミラノで輝いた二人を見本に、一日一日を大切に過ごしてほしいと思っています。

